

東京湾海況情報 14 - 05

貧酸素水塊動向調査結果(6月17日観測分)

平成14年6月20日
 千葉県水産研究センター 富津研究所
 〒293-0042 富津市小久保3091
 0439-65-3071 FAX 0439-65-3072
 E-mail futtsu-gk@mz.pref.chiba.jp

資料：水質調査 6/17 東京内湾：わかふさ
 東京都環境局・千葉県環境研究センター・ふさなみ観測資料

貧酸素水塊動向調査結果(6月17日分)

注意！！ 調査翌日にまとまった雨が降りました(富津研究所の雨量計で6.2mm)。東京湾の海況が調査結果と大きく変わっている可能性があります。

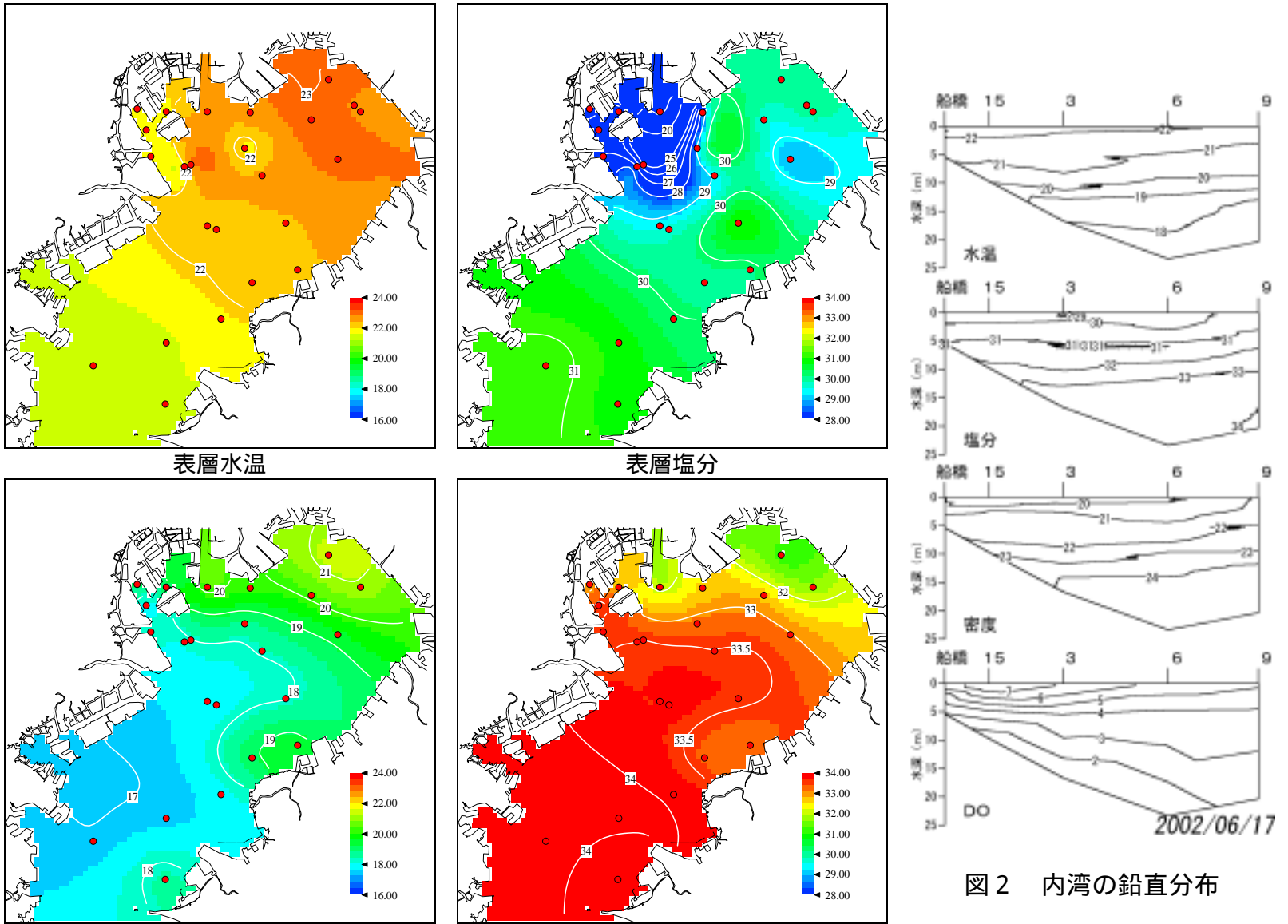


図1 内湾の水温・塩分分布(表層・底層)

水温・塩分の状況(図1~2, 表1)

水温は表層で21~23, 底層で16~21でした。塩分は表層で20以下~31と内湾北西部で低く, 底層で31~34でした。内湾縦断面の鉛直分布では水温17~22(上下の水温差5), 塩分28~34でした。

赤潮の状況(図3~4, 表1)

内湾の赤潮は北東部に一部みられるのみです。植物プランクトンの量の指標となるクロロフィルa量は10~40 $\mu g/L$ 台でした。

主なプランクトンは北部が渦鞭毛藻類のプロロセントラム(*Prorocentrum sp.*)と小型の渦鞭毛藻類, 南部が珪藻のスケルトネマ(*Skeletonema costatum*)と渦鞭毛藻類のケラチウム(*Ceratium furca*)です。プロロセントラムは赤潮になると魚類の鰓につまるため, ハマチの養殖場などでは被害をもたらすことがあります。

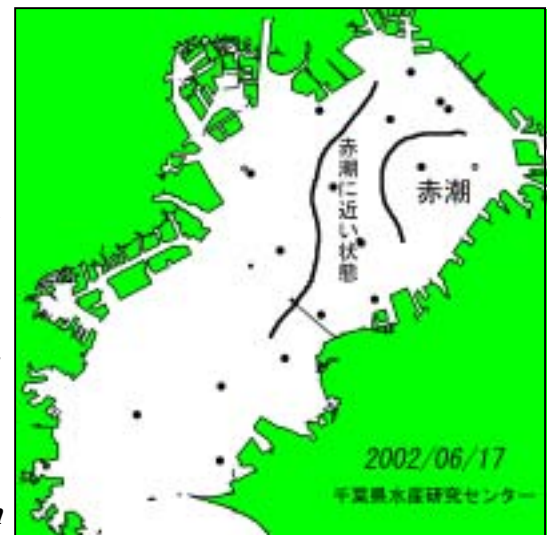


図3 内湾の赤潮の状況

千葉県赤潮の目安...色：オリーブ～褐色，溶存酸素の飽和度：150%以上，透明度：1.5m以下，pH：8.5以上，クロロフィルa量：50 $\mu\text{g}/\text{L}$ 以上

貧酸素水塊の状況（図2，5～6，表1）

底層の溶存酸素量は0～3 ml/Lで，2.5 ml/L以下の貧酸素水塊は内湾の広い範囲に広がっています。昨年と比較しても貧酸素水塊の範囲は広く，内湾縦断面の貧酸素割合でもはや拡大しています。

水産研究センターでは2.5 ml/L（酸素飽和度約50%）以下を貧酸素水としています。漁業種類によってはそれ以上でも影響がでる場合もありますので注意してください。

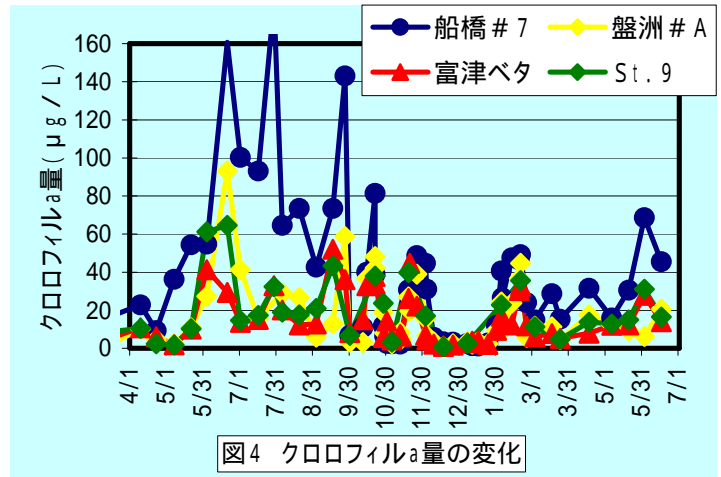
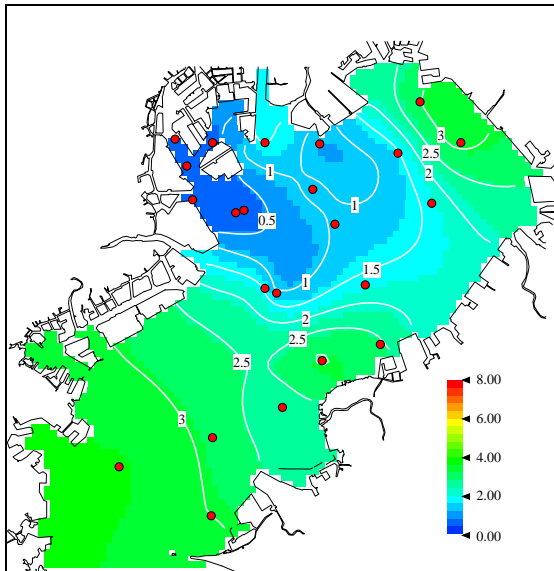
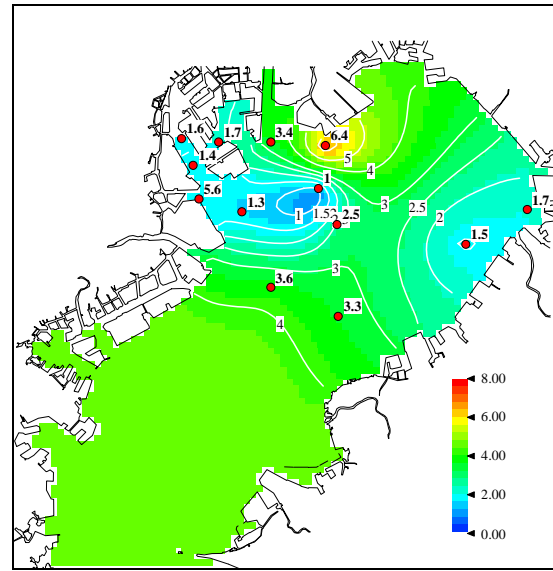


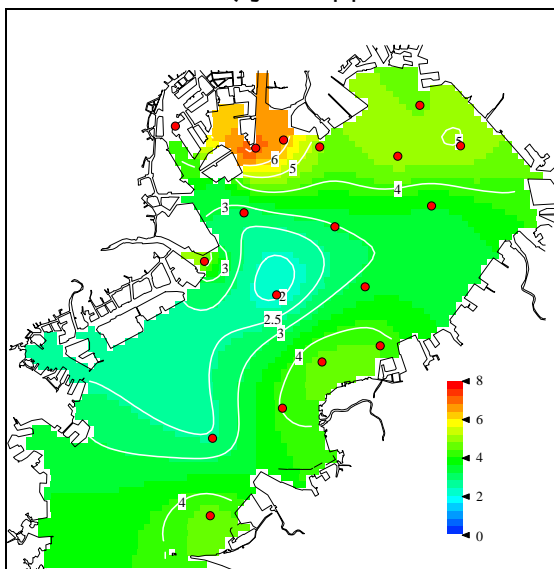
図4 クロロフィルa量の変化



6月17日



6月7日



昨年同期（6月21日分）

図5 底層の溶存酸素量分布 (ml/L)

表1. 主な調査点の水質調査結果 (表層)

調査年月日：平成14年6月17日

調査点	透明度	水温	塩分	pH	クロロフィルa量 (μg/L)	DO(底層) ml/L
船橋	1.4	23.0	29.81	8.3	46	2.9
St. 15	1.5	23.0	29.41	8.5	47	1.3
st. 3	1.6	22.5	28.97	8.4	29	1.0
St. 6	2.8	22.0	29.33	8.3	19	1.0
St. 9	3.0	21.4	30.70	8.1	16	2.9
盤洲Cブイ	1.9	22.2	29.84	8.4	32	2.6
盤洲Bブイ	2.0	22.2	29.78	8.4	25	3.0
St. 8 (盤洲Aブイ)	2.2	21.8	30.04	8.3	21	2.3
富津ベタ	3.7	21.5	30.72	8.1	14	3.0

透明度，pH，クロロフィルa量の網掛けは赤潮，DOの網掛けは貧酸素水の基準に達していることを示しています。

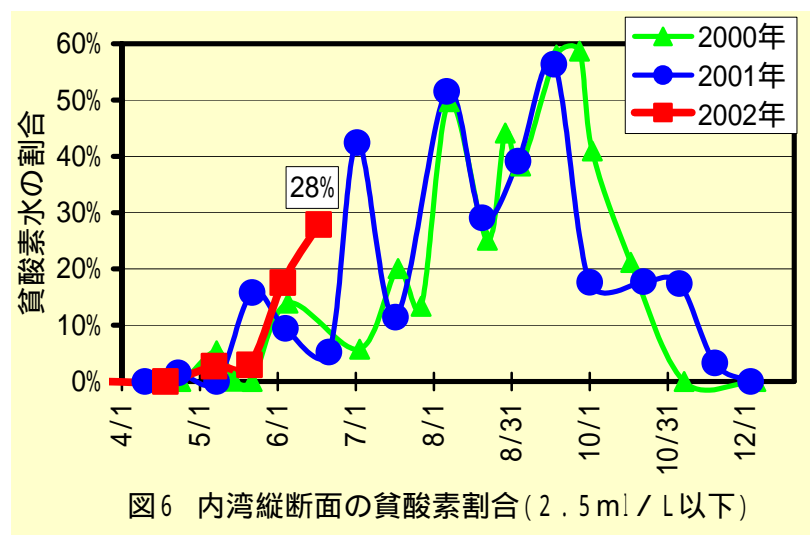


図6 内湾縦断面の貧酸素割合 (2.5 ml/L以下)

グラフの見方は 13 - 17 をご参照ください

東京湾情報ボックス

今回寄せられた情報がありませんでした。
今後もよろしくお願いいたします。

情報は水産研究センター富津研究所までお願いします
0439-65-3071 FAX 0439-65-3072
E-mail futtsu-gk@mz.pref.chiba.jp

観測日記

内湾中央部 (st. 9) でミズクラゲの大群発見。直径100m ぐらいの範囲に群がっていました。